

日本放送協会 理事会議事録

(2021年2月24日開催分)

2021年 3月12日(金)公表

<会議の名称>

理事会

<会議日時>

2021年2月24日(水) 午前10時30分～11時10分

<出席者>

前田会長、正籬副会長、松坂専務理事、板野専務理事、
児野専務理事・技師長、中田専務理事、角理事、若泉理事、松崎理事、
小池理事、林理事、坂本特別主幹

<場所>

放送センター 役員会議室

<議事>

前田会長が開会を宣言し、議事に入った。

付議事項

1 審議事項

- (1) 2020年度第3四半期業務報告(データ更新版)
- (2) 組織改正について
- (3) 2021年度要員計画について
- (4) 2022年度の職員採用について
- (5) 中央放送番組審議会委員の委嘱について

2 報告事項

- (1) 地方放送番組審議会委員の委嘱について
- (2) 考査報告

(3) 「第72回日本放送協会放送文化賞」の贈呈について

(4) 第96回放送記念日記念式典の実施について

3 審議事項

(6) 第1372回経営委員会付議事項について

議事経過

1 審議事項

(1) 2020年度第3四半期業務報告（データ更新版）

(経営企画局)

放送法第39条第4項に定める会長の職務の執行状況を取りまとめた「2020年度第3四半期業務報告」（注）については、1月26日開催の理事会で審議、決定され、同日の第1370回経営委員会で報告しています。このたび、その時点ではスケジュールの関係でまとめることができなかった「中央放送番組審議会の意見」を新たに掲載しましたので、審議をお願いします。

本件が決定されれば、本日開催の第1372回経営委員会に報告事項として提出します。

(会 長) ご意見等がありませんので、原案どおり決定し、本日開催の第1372回経営委員会に報告します。

注：「2020年度第3四半期業務報告」は、NHKのウェブサイト「NHKオンライン」の「経営に関する情報」に掲載しています。

(2) 組織改正について

(経営企画局)

組織改正について、審議をお願いします。

今回の組織改正では、「新しいNHKらしさの追求」に向けて、経営マネジメント改革と人事制度改革を推進するとともに、いかなる場合でも正確、公平公正で、豊かな放送・サービスをお届けできる体制の強化を目指します。

事業継続・発信強化および経営マネジメント改革に関する体制整備として、大阪拠点放送局の再編と、神戸放送局の営業体制の再編を実施します。また、組織横断の経営課題解決に向けた体制整備として、臨時職制「放送総局・戦略オペレーション室」の新設を実施します。

本件が決定されれば、2021年4月1日に実施します。

(副会長) 戦略オペレーション室は、半年で成果と課題を検証して、その後の組織の在り方を検討することにしていきます。組織の壁にとらわれない弾力的な要員運用を強化し、PDの完全な一体運用を目指したいと考えています。視聴者意向を反映した「新しいNHKらしさ」を追求していきます。

半年という限られた時間で成果を出すために、4月の組織改正を待つことなく、会長副会長の下に、準備プロジェクトを早急に立ち上げたいと考えています。

(会長) 今回、大阪局での先行実施という形で組織改正をします。経営管理、コンテンツ制作、視聴者リレーションという形に機能別に組織を再編し、運用面でも縦割りをフラット化したいと思います。戦略オペレーション室については、PD一体運用の仕上げをするという意味で、人事権を含めて見直し、より一体的な運用ができるように設置してもらいますが、成果について半年後に検証したいと思います。

(3) 2021年度要員計画について

(人事局)

2021年度要員計画については、「2021年度予算・事業計画における要員計画について」として、2020年12月8日の理事会で審議され、予算人員1万343人で決定されています。本日は、具体的な計画を取りまとめましたので、審議をお願いします。

2021年度の要員計画では、経営資源の再配分を進めます。具体的には、既存業務のスクラップにより94人分、既存業務の委託により3

6人分、あわせて130人分について、新規業務への対応等のために、要員シフトを実施します。

(児野専務理事) 要員管理はグループ全体で見ていくことが重要だと思いますのでよろしくお願いします。

(人事局) グループ全体をスリムで強靱な体制とするため要員管理を進めていくことは重要な課題です。関係部局で検討を進めています。

(4) 2022年度の職員採用について

(人事局)

2022年度の職員採用について、審議をお願いします。

2022年度に入局する職員については、長期的に安定した要員体制を構築するため250人程度を採用したいと考えています。この250人には、地域採用等を含んでいます。

(会 長) 採用は長期的な視点をもって、安定的に行っていく必要があります。地域を担う人材の在り方の検討も必要です。また、グループ全体での採用の在り方を検討していく必要があると思います。

(5) 中央放送番組審議会委員の委嘱について

(正籬副会長)

中央放送番組審議会委員の委嘱について、審議をお願いします。

磯崎功典氏（麒麟ホールディングス株式会社代表取締役社長）に、2021年3月1日付で新規委嘱したいと思います。

本件が了承されれば、本日開催の第1372回経営委員会に諮ります。

(会 長) ご意見等がありませんので、原案どおり了承し、本日開催の第1372回経営委員会に諮ります。

2 報告事項

(1) 地方放送番組審議会委員の委嘱について

(正籬副会長)

地方放送番組審議会委員の委嘱について、報告します。

中部地方で稲垣貴彦氏（若鶴酒造株式会社取締役）、四国地方で村上健太郎氏（特定非営利活動法人NPO砂浜美術館理事長）に、2021年3月1日付で新規委嘱します。

また、中国地方の宮崎智三氏（中国新聞社論説主幹）に、同日付で再委嘱します。

なお、中部地方の稲村修氏（魚津水族館館長）、四国地方で神田優氏（NPO法人黒潮実感センターセンター長）は、任期満了により2021年2月28日付で退任されます。

本件は、本日開催の第1372回経営委員会に報告します。

(2) 考査報告

(考査室)

2021年1月11日から2月15日までの間に放送した、ニュースと番組等について考査した内容を報告します。

この期間に、国内放送番組では、ニュース7項目、番組37本の考査を実施しました。

ニュースの主な項目として、緊急事態宣言を10都府県で1か月延長したこと、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の森会長の発言に批判が相次ぎ、辞任を表明したことなどがありました。

インターネットコンテンツでは、国内初の新型コロナウイルス感染が確認された後、最新のニュースやデータを一元的に提供し、2度目の緊急事態宣言を受け内容を更に充実させた「NEWSWEB 特設サイト『新型コロナウイルス』」を考査しました。

番組では、“夜の街”という重い負のイメージの裏側で感染拡大防止と事業継続の両立を模索する人々の姿に光を当て、コロナと共にある社会のあり方を考えさせた「NHKスペシャル “夜の街”で生きる～歌舞伎町 試練の冬～」(総合・1月30日)、家庭や学校での実践例を紹介しながら性教育の必要性を考えていく「ウワサの保護者会 いつから始める？性教育」(Eテレ・1月23日)、在留資格を持たず入管施設に収容されている外国人たちに呼びかけるナイジェリア出身者の活動を

追った「E T V特集 エリザベス この世界に愛を」(Eテレ・1月23日)、それぞれひと家族だけ暮らす3つの島を訪ね、島と家族に秘められた物語を探った「離島にポツンッ!ラストファミリー物語」(BSプレミアム・1月29日)などを考査しました。

地域番組では、本土復帰50年を前に、1970年代から現在まで時代を彩ってきた沖縄の名曲を2夜に渡って、貴重な映像とともに振り返った「うちなーポップス50年史 名曲は、時代をこえて ~I・II~」(総合・1月14日・15日)、明治から戦後まで研究目的で掘り出されたアイヌの遺骨の返還について取材し、学術的利用の考え方を問いかけた「北海道スペシャル 帰郷 アイヌ遺骨返還の行方」(総合・北海道ブロック・12月25日)などの番組を考査しました。

国際放送「NHKワールド JAPAN」では、ニュース3項目、番組2本の考査を実施しました。ニュースでは、アメリカのバイデン大統領がコロナ対策の国家戦略を発表したことを伝えたほか、就任演説をリアルタイムで伝えたこと、番組では、外国人の視点に立って日本の食文化を海外の視聴者に伝えた「Japan Lost Found: ONIGIRI」(日本時間1月9日放送)などを考査しました。

考査の結果、これらの一連のニュース・番組・インターネットコンテンツは、放送法、国内番組基準、国際番組基準等に照らし、おおむね妥当であったと判断します。

(3) 「第72回日本放送協会放送文化賞」の贈呈について (総務局)

「第72回(2020年度)日本放送協会放送文化賞」の贈呈について、報告します。

この賞は、1949年度に放送開始25周年事業として創設したもので、放送事業の発展、放送文化の向上に功績のあった方々に贈呈しています。

今年度の受賞者は、大石静氏(脚本家)、北大路欣也氏(俳優)、北の富士勝昭氏(NHK大相撲中継専属解説者)、さだまさし氏(シンガーソングライター、小説家)、杉田敏氏(昭和女子大学客員教授)、鈴木陽一氏(国立研究開発法人 情報通信研究機構耐災害ICT研究センター

センター長)、夏井いつき氏(俳人、エッセイスト)の7組の方々です。
(五十音順)。

受賞者の選考は、委員長の正籬副会長はじめ6人のNHK役員と、池端俊策氏(脚本家)、今井秀樹氏(東京大学名誉教授)、大石芳野氏(フォトジャーナリスト)、大日向雅美氏(恵泉女学園大学学長)、鳥飼玖美子氏(立教大学名誉教授)、二木謙一氏(國學院大學名誉教授)の6人、計12人を委員とする日本放送協会放送文化賞受賞者選考委員会で行い、これを受けて、会長が決定しました。これまでの受賞者は今回の受賞者をあわせると471組、474人となります。

(4) 第96回放送記念日記念式典の実施について (総務局)

2021年3月22日に第96回放送記念日を迎えるにあたり、3月19日に第96回放送記念日記念式典を実施します。新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら、職員等の参集のない“無観客”形式で開催します。

式典には、総務大臣、衆議院総務委員長、参議院総務委員長、日本民間放送連盟会長をご招待しています。会長、経営委員会委員長のあいさつに続いて、来賓の方々から祝辞をいただき、その後、「第72回日本放送協会放送文化賞」贈呈式などを行う予定です。

3 審議事項

(6) 第1372回経営委員会付議事項について (経営企画局)

本日開催される第1372回経営委員会に付議する事項について、審議をお願いします。

付議事項は、議決事項として、「中央放送番組審議会委員の委嘱について」です。また、報告事項として、「『第72回日本放送協会放送文化賞』の贈呈について」、「第96回放送記念日記念式典の実施について」、「地方放送番組審議会委員の委嘱について」、および「2020年度第3四半期業務報告(データ更新版)」です。

(会長) ご意見等がありませんので、原案どおり決定します。

以上で付議事項を終了した。

上記のとおり確認した。

2021年 3月9日

会 長 前 田 晃 伸